



IDF PRESS RELEASE

Brussels, 13 August 2018

IDFプレスリリース

2018年8月13日、ブリュッセル発

ICTの活躍で乳を増産するスマート酪農場

IDFテジョンサミット2018でスマート技術を取り上げる

Smart farms powered by ICT to boost dairy output

IDF World Dairy Summit 2018 looks at smart technology

情報コミュニケーション技術（ICT）の応用により酪農場をスマート農場に転換し酪農を活気づける。物のインターネット（IoT）、データ利用およびロボット技術は、農場管理において効率性と生産性を高める。

スマート農場技術の世界的な専門家が、2018年10月15－19日に韓国のテジョンで開催予定のIDFワールドデーリーサミット2018テジョンで経験を共有する。

イスラエル、ヴォルカニセンター農業研究組織のHen Honig博士は、10月17日開催予定のICTスマート農場の特別セッションで酪農場のバイオセンサーの有効性を検討する予定である。

「バイオセンサーは乳牛の生理学的な状態と健康全般の監視を含む酪農活動のあらゆる側面で有効です。」とHonig氏は語った。「今日、市場には利用可能な多くのタイプのバイオセンサーが販売されています。将来、輝かしい成長への展望が見込めます。」

酪農場に自動搾乳や飼料システム構築に向けたロボット技術を利用することを、フランスリーインターナショナルLeyly InternationalのTimo Joosten氏が語らう予定である。

スマート農場への統合を完了させたIoTとクラウドコンピューター技術は日本の酪農家に利便性を与える。ファームノート社の本多壮一郎氏は自動管理工程を進めるICT技術に焦点を当てる予定である。

家畜の健康とアニマルウェルフェアにビッグデータを活用することについて、フランス CybeleTech 社の Marion Carrier 氏が講演する。また米国テキサス A & M 大学の Luis Tedeschi 博士はモデル化と精密酪農業について講演する。

「精密酪農とコンピューターモデル化との統合が現実味を帯びる中で、酪農場の最大利益率は、アニマルウェルフェアと生産性が意思決定支援システムに組み込まれる点まで乳牛個体の成績を最適化することにより達成されます。」と Tedeschi 博士は語った。

アイルランド Teagasc 社の Laurence Shalloo 氏は、農場経営における精密技術にデータを統合して効率性や乳質を高め環境影響を減らすことの重要性を強調する予定である。

「問題解決指向の精密技術は、利益率、持続可能性および復元性に真の利益を生みます。情報に基づくリアルタイム管理の解決策を酪農家に提供します。」

キャロライン・エモンド IDF 事務総長はスマート農場経営から学べることは多い。競争の激しい世界の貿易環境のなかで、今日および将来に渡って事業を成長させる原動力となると語った。

「スマート農場経営技術は、酪農場の監視と適応を通して生産を最大化して比較優位な地位を与えてくれます。」エモンド IDF 事務総長は語った。

IDF ワールドデーリーサミット 2018 テジョンのプログラムは、次のサイトからダウンロードできる。

[http://www.idfwds2018.com/?ct=t\(The International Dairy Federation suppo5 31 2017\)](http://www.idfwds2018.com/?ct=t(The+International+Dairy+Federation+suppo5+31+2017)) をクリックしてください。

完

翻訳：J IDF 事務局

編者注: 仮訳の正確性、完全性、有用性等についてはいかなる保証をするものではありません。参考資料として扱い、内容に疑義が生じた場合は英文の原文をご確認ください。